



**基本理念** この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

**天井に広がる青い海に、心と体がほどける時間**

療育指導室 主任保育士 小林 聡子

昨年12月、セイコーエプソン株式会社の社会貢献活動「ゆめ水族館」が、当院で開催されました。

最新の映像技術で、天井や壁に海の中の映像を投映し、揺れるスクリーンも組み合わせたこの活動は重症心身障がい児(者)の皆様に、強烈な驚きと感動を届けてくれました。

暗転した山の子ホールの天井一面にキラキラとした魚群が映し出されると、見上げた利用者様の瞳に水面の輝きが映り込みます。リアルな魚の動きに目を丸くして驚いたり、手を伸ばして捕まえようとする姿に、私たちスタッフも利用者の新たな面を見ることができました。

中でも印象的だったのは、天井を見上げていたNさんです。悠々と泳ぐ魚の群れを見て、「すいぞくかん」と、はっきり言ったのです。笑顔で見上げるその姿は、とても満足しているように見えました。

今回の体験は、豊かな感覚刺激が「生きる力」や「伝えたい気持ち」を引き出すことを教えてくれました。

この青い海の記憶を胸に、これからも利用者1人1人の心が動く瞬間を、共に体験し積み重ねていきたいと思えます。開催にご尽力いただいたゆめ水族館事務局や社員の皆様、前日ミーティングなどに参加いただいた院内スタッフに、心より感謝申し上げます。



**● 地域連携室だより**

精神保健福祉士 長浜 直輝

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労についての相談、社会資源についての相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますので、お困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

**院長**



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

**診療科**

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

**病床数**

353床

- ・精神 151床  
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



**路線バス** 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

**自動車** 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

**お問い合わせ**

**時間** 8:30 ~ 17:15  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
**TEL** 098-968-2133(代)  
**内線** 231・234

**地域医療連携室(直通)**

**TEL** 098-968-3550  
**FAX** 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



### クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ450例になりました。2026年1月のCLZ登録症例は2例でした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## 感染管理室からのお知らせ

—感染症予防へのご協力をお願い— 感染管理専従看護師 比嘉 理恵美

現在、インフルエンザをはじめとする感染症が流行しやすい時期が続いています。季節の変わり目は体調を崩しやすく、引き続き基本的な感染対策が重要です。当院では、手指衛生行動の徹底、発熱や呼吸器症状のある方へ早期対応、ゾーニングの実施、環境整備の強化など、院内感染の予防に取り組んでいます。また、職員への研修や定期的なラウンドを通して、感染対策の質の向上に努めています。感染症から患者さんを守るためには、ご家族の皆様のご理解とご協力が不可欠です。面会時には手指消毒の実施、マスクの着用、発熱・咳などの症状がある場合の来院自粛にご協力をお願いいたします。皆様が安心して療養できる環境を守るため、引き続き感染対策へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 転倒予防のために靴の着用をお願いします

医療安全係長 中村 美寿々

当院では入院中、患者さんに安全にお過ごしいただくために、転倒予防に取り組んでいます。患者さんの中には「スリッパ」を着用され、転倒に至るケースが多くあります。入院中は、体調の変化や環境の違いにより、普段よりも転びやすくなります。安全に歩行していただくため、また安全・安心して過ごしいただくために、「靴の着用」についてご理解とご協力をお願いいたします。



### 《おすすめ靴》

- ・かかとがしっかりして、足にあった靴
- ・滑りにくい靴底
- ・脱ぎ履きしやすく、足を固定できるもの(マジックテープ等)

お困りなことがありましたら、患者窓口を通じて、ぜひ、ご相談ください。

## 令和7年度沖縄県DPATスキルアップ研修会

心理療法士 諸見 秀太

2月9日に、沖縄県DPATスキルアップ研修会が開催されました。県内の精神科医療機関ならびに精神保健福祉センター等の行政機関の合わせて9機関が参加されていました。当院からは講師・ファシリテーターや研修参加者として医師・看護師・業務調整員(心理療法士)の計4名が参加しました。

本研修は、これまでに県内DPAT研修へ参加されてきた方に向けて、災害支援現場におけるDPAT活動をより実践的に学ぶ内容で行われました。『災害時の記録』講義では、“クロノロジー”という経時活動記録の作成を通して情報収集・整理を行い、支援活動に必要な情報管理の在り方・情報の活用の仕方について、クロノロジーを実際を書く演習も含めたものでした。『EMIS』の講義では、昨年4月より新しく運用されている広域災害救急医療情報システム(EMIS)の概要ならびに支援現場での実運用について、実際にEMISの操作演習を行いながら、学ぶ内容でした。これら2つの講義をもとに、『大規模災害演習』では、沖縄県南東沖を中心に大規模な地震が発生し、県内複数の精神科医療機関が被災され支援が必要という想定のもと、DPAT調整本部の立ち上げ・運営ならびに被災した病院現地支援活動を行う実践演習が行われました。今回はスキルアップ研修ということもあり、自病院の安全が確認され都道府県DPATとして派遣活動を行うための大事な要素や、他支援団体とともに支援を行う際のコミュニケーション、EMISを運用による情報収集・整理・活用、精神科患者の避難・搬送における留意点、燃料や水資源等の物資支援を受けるために必要なこと、病院支援活動における被災病院のアセスメントと方針の策定、などこれまでの研修で学んできたことをより実践的に活かすことが求められる演習となりました。参加者からは「より实际的で、普段からの備えを意識していけないといけない」「沖縄県が被災した場合は、支援が少ない、限られる可能性を考えると、自分の病院も今できる備えをしっかりとすすめていきたい」「派遣された場合の実際を考えることができた」等の声が聞かれました。

県内でも台風・豪雨災害や津波警報発令による避難など、災害対応を実際に行う機会が近年続いています。当院は、災害拠点精神科病院としての役割を担っており、現在非常電源や貯水設備の更新をすすめ、平時における備えに施設としても取り組んでおります。また、災害対策委員会において、各部署の委員メンバーとともに、災害時の対応について毎月検討しております。人的・物的支援について平時における備えの意識のもと、施設単位にとどまらず、個人で取り組める災害時対応について、今一度確認・検討することが大事と思います。

項目(議題)	項目	講師(講師名)
12:00~12:05	受付	
12:05~12:08	主催者挨拶	中村 美寿々
13:00~13:15 (05分)	プログラム協議及び演習 災害時の記録	社会医療法人へんそ、平安病院 医師 内田 浩一、風丸 亮
13:55~15:05 (05分)	プログラム協議及び演習 EMIS	国立病院機構 琉球病院 臨床工学技士 藤原 亮太 氏
15:20~15:30	休憩(10分)	
15:30~16:05 (05分)	プログラム協議 大規模災害演習	社会医療法人へんそ、平安病院 医師 内田 浩一、内田 浩一 氏
16:30~17:00	閉会	